

CONTENTS	1~2	ニュース&レポート	効果的な研修にむけた取り組み
	3	ニュース&レポート	カンボジア・ラオスの中小企業の状況は?(第2弾)
	4	関係者のひとこと	日本民族の自信と誇り
	5	協力企業特集	ダイワ産業㈱/中川木材産業㈱/㈱フルーティヤフーズ
	6	世界の現状レポート/PREXだより(インターンシップ受入れ/2011年7~8月実施の研修)	

ニュース&レポート ①

効果的な研修にむけた取り組み

2010年度事業報告

2010年度は31件の研修・交流事業を実施し、67カ国・地域の749名が参加しました。その中には海外研修や帰国研修員対象フォローアップ事業などの海外事業6件も含まれます。研修・交流事業にとって、参加者のニーズに基づき、それに応えられるカリキュラムを構成し提供することがまず重要ですが、加えて研修運営者として参加者が理解をより深められるための工夫も必要です。参加意欲の向上や、視野の拡大・気づきの深化、帰国後の活動継続、日本や日本人への理解など、昨年度は様々な観点で、特色ある取り組みを行いました。



マレーシア研修員によるディスカッションの様子

参加者の視野を拡大

「JICA マレーシア初任管理職研修」・「JICA マレーシア中間管理職研修」は、マレーシアの行政官を対象にマネジメント力の向上を目指し実施する研修です。これらの研修では、研修参加者それぞれに、毎日の講義・企業訪問などで理解した点、気づいた点などについてデイリーレポート(日報)を作成してもらい、週に一度、研修参加者および実施機関関係者全員にメールで配信、それをもとにディスカッションを行いました。このことを通じ、他の研修員の理解の仕方も知ることで情報量や視野の拡大ができると同時に、皆が日々レポートを作成していることも分かるため、全員が参加意識を常に高く持ち続けることにつながりました。運営側にとっても、レポートで提示された疑問などを、講師に伝え、研修期間中に疑問点が解消できると同時に、終了後にはレポートから得られる情報を、今後の研修改善への提案として活用することができました。

参加者間のチームビルディング

「JICA中米地域官民パートナーシップによる地域産業振興」研修は、中米6カ国・7名の行政官や組合の幹部が参加し、地域産業の振興のために、各国・地域の行政と民間の組織とがいかに協力し事業を推進させるかを学ぶ研修です。

この研修に限らず、多くの研修の参加者は、日本に来て初めて顔を合わせます。また、地域別研修や集団研修のように複数の国から参加するものも少なくありません。そんなメンバーで長い場合は1カ月以上も同じプログラムに参加するため、メンバー間のチーム意識の醸成(チームビルディング)は、参加者が前向きにより環境で学べるかどうかを左右する大事なポイントとなります。

上記の研修では、同じ中米地域からの

参加で共通する点も多いことから、研修員相互の情報や経験の共有・交換を研修の大きなポイントと位置づけ、その前提となるチームビルディングのための時間を設けました。

それによって、グループ意識も高まり、情報や経験の交換・共有が円滑に行え、帰国後も関係を継続できるネットワークづくりについても検討することで、帰国後の実践につながっています。

同じ課題に取り組み学んだ「チーム」であるという共通認識を高めることで、研修中から帰国後まで相互研鑽・切磋琢磨しあえる「仲間」になるということも、研修成果を実践に結びつける重要な要素です。

相互理解促進のために

研修を通じた途上国と関西との相互理解・交流の促進はPREXが果たすべき役



中米の研修員・地図を使った自己紹介でアイスブレイク

割の一つです。

2010年度2件実施した「JICA太陽光発電導入支援研修」は、「環境先進地域・関西」において太陽光発電についての基本的な技術や特性などを理解し、各国に適した導入計画を策定することを目的に、アジア、アフリカ、中南米の広い地域から、省エネルギー担当の行政官、計28名が参加しました。

この研修で実施したカントリーレポート発表では、研修員から各国のエネルギー・電力事情、太陽光発電の現状などを発表してもらい、研修実施に協力いただく関連企業の関係者に公開しました。参加した企業の方々からは参加国の現状や将来計画について活発な質疑応答も行われました。

研修には各分野の専門家が参加するものも多く、特に「太陽光発電」という新しい分野に関する様々な途上国の最新情報を一度に入手できるのは、貴重な機会といえます。

研修プログラムで途上国の参加者が学ぶということに加え、日本・関西の関係者が最新の現地情報を入手できる貴重な場として、いかに活用できるか、という点もPREXとして考えていく必要があります。

関西の企業経営者から直接お話を伺える、というのもPREXの研修の特徴です。

中南米など8カ国から中小企業振興施策を担当する行政官など12名を対象に実施した「JICA中小企業振興政策研修(A)」では、すぐれた関西の中堅中小企

2010年度の研修・交流事業件数31件、 研修参加者67カ国・地域から749名

■ テーマ・分野別、形態別の件数と参加者数

2010年度は31件の研修・交流事業を実施しました。ここ数年自治体との連携による環境関連研修の件数・参加者数が増加しています。同窓会フォローアップ研修は、中国、中米（コスタリカ・ニカラグア）、ラオス・カンボジアで実施しました。

▼テーマ・分野	▼受入研修		▼海外研修		▼同窓会フォローアップ		▼合計	
	件数	参加者数	件数	参加者数	件数	参加者数	件数	参加者数
経営管理	9	114	—	—	—	—	9	114
中小企業振興	6	63	—	—	2	120	8	183
貿易振興	1	9	—	—	—	—	1	9
地域振興	1	7	—	—	1	57	2	64
観光振興	2	17	—	—	—	—	2	17
環境	5	43	3	302	—	—	8	345
その他分野	1	17	—	—	—	—	1	17
合計	25	270	3	302	3	177	31	749

■ 研修・交流事業参加者の地域別内訳

地域別では、東アジア、南西アジア、中央アジアを含めたアジア地域が75.6%、現地で同窓会フォローアップ事業を行った中南米が12.3%となっています。次いでアフリカ、中東地域からの参加者も増加しています。

▼地域	▼参加者数(人)				▼構成比
	受入研修	海外研修	同窓会フォローアップ	小計	
東アジア	117	302	120	539	72.0%
南西アジア	15	—	—	15	2.0%
中央アジア	12	—	—	12	1.6%
アジア地域 小計	(144)	(302)	(120)	(566)	(75.6%)
中南米	35	—	57	92	12.3%
アフリカ	54	—	—	54	7.2%
中東	30	—	—	30	4.0%
中・南・東欧	5	—	—	5	0.7%
大洋州	2	—	—	2	0.2%
合計	270	302	177	749	100%

業7社を訪問し、経営者の口から直に企業経営や中小企業に必要な施策のあり方などについて話を伺いました。中小企業振興に携わる行政官として、強みのある企業の実態とその経営者の姿について理解を深めることは、自国での振興施策を考える上でも大変有益な時間となりました。

なお、2010年度は、研修・交流事業の実施にあたっては、322の企業・団体、103人の専門家はじめ、多くの方々に協力いただき、推進することができました。心よりお礼を申し上げます。

— 国際交流部 担当部長 瀬戸口 恵美子

カンボジア・ラオスの中小企業の状況は? (第2弾)

同窓会フォローアップ事業

カンボジア・ラオスニーズ調査及びフォローアップ

2011年2月に実施したラオス・カンボジアでの同窓会フォローアップ事業では、両国の中小企業支援機関及び現地中小企業の最新の活動状況について調査を行いました。「PREX NOW」204号に続く「出張報告第2弾」として、本号では出張で訪れた中小企業をご紹介します。



カンボジア

カンボジアの高品質な縫製品を海外市場へ

KHU PHEAP縫製会社 (KHU PHEAP GARMENT Co., Ltd.)

- 事業内容：シャツ、ジーンズ製造業
- 創業：1993年
- 従業員数：500名

政府が使用するユニホーム製造の会社としてスタートした同企業は、現在は国内大手5社の下請け企業として、欧米に輸出されるシャツやジーンズの製造を行っています。15台のミシンを揃え家族で経営をはじめ



メンズドレスシャツの製造ラインの様子

ました。2008年にはフランスからの直接受注があったものの、現在は海外からの直接受注はありません。今は、品質の向上に努め、国内や外資からも認められる企業になるべく努力を続けています。

カンボジアのモデル企業

LYLY食品産業会社 (LYLY FOOD Industry Co., Ltd.)

- 事業内容：スナック菓子製造業
- 創業：2002年
- 従業員数：280名
- HP：<http://www.lylyfood.com/>

輸入品に溢れる自国の状況に疑問を持ち、国内で調達できる原料を使った新鮮なモノを作りたい、国内に雇用を生み出したいと考えたのが同社の女性社長でした。そして国内のとうもろこし、米に目をつけ駄菓子の製造を開始、現在では1日に600万パック、10の違った味を持つ



商品のスナック菓子

スナック菓子(1つ2円程度)を、カンボジア全土に販売しています。国内の中小企業支援機関からの注目も高く、カンボジアのモデル企業として先進的な経営活動を続けています。

ラオス

手作りの洋菓子をラオス人の手で

C&A工場 (C&A Factory)

- 事業内容：パン・ケーキ製造販売業
- 創業：1991年
- 従業員数：30名

パン・ケーキの製造、販売を行う同社は、夫婦で家庭の台所からパン作りを始め、現在は工場と販売店舗を持ち、従業員30名を抱える企業です。顧客の要望から、洋菓子作りのヒントを得、数多く存在するパン商



ラオス航空の機内食の実物

店とは違う特徴を打ち出したことが、ビジネスの成功のきっかけでした。ラオス航空への機内食の納品やラオスでは初めてのケータリング事業、5S活動など生産性向上活動も積極的に進めています。

会社は社会・地域のために

Xao Ban Group (Xao Ban Group)

- 事業内容：ヨーグルト製造販売業
- 創業：2004年
- 従業員数：20名
- HP：<http://www.xaoban.com/>

地元の果物・野菜農家など生産者の保護、現地の雇用機会創造を使命に掲げる同社は、ホームメイドのヨーグルトやラオスの農産物(はちみつ、きのこ、ナッツなど)を使った加工食品の製造、販売を行っています。



ヨーグルト製造の鍋

経営者夫婦の家の敷地内に工場が設けられ、全く経験のない人材や障害を持つ方を多く採用し、OJTで従業員を育てています。製品は、国内の学校、ホテル、スーパーマーケット等に納品されています。

— 国際交流部 コースプランナー 西阪 三友紀

※詳細はPREXホームページ「世界の現状レポート」をご覧ください。

事業概要

研修名：2010年度「カンボジア・ラオスニーズ調査及びフォローアップ」 実施期間：2011.2.14(月)～27(日)

出張者：プール学院大学 平井拓己准教授、PREX担当課長 三浦佳子、PREXコースプランナー 西阪三友紀 出張地：ラオス ビエンチャン、カンボジア プノンペン

PREXは、2011年4月から公益財団法人としてスタートを切りました。
機関紙「PREX NOW」では、PREXを支える新役員の方々のメッセージを紹介します。

日本民族の自信と誇り



PREX監事
財団法人 大阪21世紀協会 理事長

堀井 良殷

未曾有の大災害に直面して、改めて私たちは自らが日本人であることを確認することになりました。絆や連帯の強さ、忍耐、和を尊び秩序や誇りを失わない言動、それらは海外からも日本人の際立った特性として驚異の目で注目されています。大災害で私たち日本は多くのものを失いましたが自信や誇りは決して失くしたのではなかったのです。

これからの人材交流にあたって一番大切なことは、この日本人の精神的基軸を海外の人々に理解してもらうことだと思います。

なぜなら日本の経営やものづくりの基本にも日本人の精神的背景が投影されている筈だからです。

日本人の何たるかを世界に紹介したのは新渡戸稲造(1862-1933)が著した『武士道』が有名です。彼はそのなかで「経済や軍事で勝利するのではない。活力を与えるものは精神でありそれなくしては最良の器具も殆ど益するところはない」と述べ、「時代は移り変わり、武士道も精神的体系としては減んでゆくだろうが、必ず長く日本人の“徳”として受け継がれ、その香りは遠き彼方の見えざる丘より風に漂ってくるがごとくであろう(意識)」と述べています。今度の大災害にあたって私は一般人の姿にこの言葉を思い浮かべました。指導者に徳の姿が見えないのは残念ではありますが。

さて、もうひとつ日本人が培ってきた精神的伝統として京・大坂で始まった商人道あるいは町人道を挙げることができます。

18世紀前半に大坂で開塾された懐徳堂や京都ではじまった石門心学では人の人たる道は何かを問いかけ、人のために働くことこそ人たりうると結論づけました。「人生の宝は一心の善にあり、勤勉で正直であり、先も立ち我も立つことこそまことの経済活動である。社会奉仕によって所得を得ることは正当な行為であるが、すべての富は天下のものである。職業に上下はなく、役割分担が違うだけで社会に役立つためという点では平等である」と説きました。こうした商業哲学は京・大坂の商家の家訓、社訓として受け継がれ広まって行きました。近江の三方よしもそのひとつです。この精神は明治以降、近代日本をつくった偉大な先人たちにも共通して色濃く見ることができます。

日本製品の優秀さは勤勉で責任感の強い日本人の勤労観に支えられていると思います。自分の仕事に対する誇りを日本人はまだ失っていない筈です。そして移ろいやすい四季のなかで養われるこまやかな感性、時に襲ってくる大地震や台風などに備えつつ、今日も田の草をとる粘り強さ、これらが世界中どこにもない日本人の優秀さを示す美点ではないでしょうか。

『悪徳拜金主義が美徳であるがごとき社会は永続できない』とピーター・ドラッカー(1909-2005)がいうように、日本人のもつ精神的特性が持続可能社会への鍵であることを世界に訴えたいと思います。

協力企業特集

PREXでは、年間30件前後の研修を国内で実施し、大変多くの訪問先にご協力いただいています。その中から毎号、特色ある企業などをご紹介します。

322件

うち新規 62件

ひのきを活かした
ものづくり

ダイワ産業(株)

本社=奈良県高市郡高取町
HP=<http://www.daiwa70.com/>

「中小企業振興政策(B)」で訪問

林業・木工業の盛んな奈良県南部にある同社は、国産ひのきを用いた内装材、まな板などの家庭用品、風呂椅子・湯桶などの浴用品、消臭剤や寝具素材などを製作しています。日本を代表する木「ひのき」を伝統の技と科学的な視点、そして独創的な発想を持って常に新しい技術を研究開発しています。「中小企業振興政策(B)」で同じく訪問させていただいた「奈良県森林技術センター」の協力のもと耐カビ性に関する試験を行うなど様々な試行錯誤を経て、国産材による商品も開発してきました。

研修員からは、「中小企業が行政支援からどのような利益を得られるかを学ぶことができた」「中小企業による地域資源の付加価値化の取り組みを理解できた」などの感想が寄せられました。



同社の工場にて、ひのき材を手に説明される中西社長と説明に聞き入る研修員。

エクステリアの
設計・施工に定評

中川木材産業(株)

本社=大阪府堺市美原区木材通
HP=<http://www.wood.co.jp/nakagawa/>

「ウズベキスタン日本センター
ビジネス実務研修」で訪問

「ウズベキスタン日本センターのビジネス実務研修」で、研修員の一人が木工製品の製造販売業に携わっていたので訪問させていただきました。USJの屋外木造施設の殆どを、同社が企画・設計・施工されたというスゴイ会社です。また本業の木工関係以外にも、ずっと以前からITの活用レベルが非常に高く、ホームページの内容が極めて豊富で、ペーパーレス会議や電子ファイリングの実用等徹底されていて、社長自らホームページのデザインやWEBへの書き込み等、“趣味”を兼ねて腕を振るわれているとのこと、研修員も感心するばかりでした。

中川社長からは、「楽しい時間を過ごすことができました」との大変うれしいお言葉を頂戴いたしました。次回はIT活用を中心としたテーマでも訪問したいものです。



工場見学で中川社長より木工作業場のご説明をいただきました。

バラエティ豊かな
ドライフルーツを販売

(株)フルーティアフーズ

本社=大阪府守口市
HP=<http://store.shopping.yahoo.co.jp/fruitya/>

「中米カリブ地域・日本貿易振興のためのキャ
パシティ・ディベロップメント研修」で訪問

同社は、ドライフルーツ、健康茶等をインターネット中心に販売しており、ホームページには国内のみならず様々な国から入手された珍しく、高品質なドライフルーツや健康茶等が紹介されています。国内に独自の販売ルートを持っており、同社の商品を購入するリピーターユーザーが数多くおられるそうです。中米地域では、良質なフルーツが多く採れることから、日本へのドライフルーツの輸出に興味を持っている研修員が多く、研修当日は柴繁一社長から日本人好みのドライフルーツの特徴について、数多くのサンプルを使いながらご紹介いただきました。同社が販売する肉厚でジューシーなドライフルーツを実際に食べた研修員は、日本市場参入へのヒントを掴み、自国産品の改善点などを整理していました。



持参したドライフルーツについて、柴社長からアドバイスをもらうコスタリカの研修員。

新しいキルギスを自分たちの手で

2010年3月、帰国後の活動状況や研修ニーズ確認などを目的に専門家とともに中央アジアを訪問。その後、自国での活動状況報告の場として「中央アジア経済団体強化コース」参加者を対象に「Eジャーナル」を4カ国(※)持ち回りで発行することとなり、既に創刊号(日本発)、第2号(キルギス発)を発行しました。送付先は経済団体の幹部等で、各国での社会・経済状況に応じた経済団体のあり方や活動状況などを継続的に相互に報告・理解しあうことは、各国の経済団体の活性化と合わせて、中央アジア地域の連携強化・安定にも重要な観点であり、今後も継続を目指します。

(以下、第2号、キルギスからの報告より抜粋)



2010年、キルギスは大きな衝撃を受けた。ナリンで発生した雷鳴が、タラスで稲妻となり、ビシュケクの民衆の怒りによって落雷となり、多くの犠牲の上に勝利がもたらされた。現政府は歴史を繰り返すことなく、3度目の革命につながらないよう、民主的に選ばれ不法な手段は排除している。しかし社会の安定度合いを映すように、投資状況は非常に悪化している。

キルギスは現在、移行期であり、自分たちの将来を考えなければならない。歴史は我々に新しい若いリーダーによる、開かれた公正な政府組織による、「自由な新しいキルギス」をつくるチャンスを与えてくれているのだから。

—国際交流部 担当部長 瀬戸口 恵美子

※4カ国: キルギス、カザフスタン、ウズベキスタン、日本。詳細はPREXホームページ「世界の現状レポート」でご覧いただけます。

PREXだより

インターンシップ受入れ

PREXでは、交流活動として留学生、日本人学生のインターンシップを年間3名程度受入れています。今回は関西学院大学の韓国からの留学生イ・ガヒさんの体験をご紹介します。



「ウズベキスタン日本センタービジネス実務研修」に同行しサンレー冷熱株式会社を訪問。企業の改善活動について講義を受け「日本で経営者の話が聞けるとは思わなかった」と喜ぶガヒさん(前から2列目中央)。

先進国としての日本の一面

イ・ガヒ 関西学院大学文学部 2回生
(受入期間: 2011年2月10日~3月8日)

今まで国際的な仕事という貿易関連か旅行関係の仕事がすぐ思い浮かび、国際交流団体が何をするのか見当もつきませんでした。今回のインターンシップをきっかけに先進国や開発途上国という考え方に理解を深め、関心を持つようになりました。日本は、韓国とは文化が違うなと思っていましたが、今回「太陽光発電研修」や「観光振興研修」に参加して日本は、「先進国」だと実感しました。

研修の同行を通して、PREXの職員の方々が「研修員がどうしても講義内容について理解を深めることができるか」考えているのが印象的でした。PREXの職員の方々は、黒板を使った講義で講師の先生が漢字を書いたらそれに英語で訳をつけます。企業訪問時には、研修員に、事前に注意して見るポイントを説明します。本当にいろいろなところに気遣っていると思いました。

インターンシップ中にいくつかの会議にも参加しましたが、日本人は自分が意見を言うときに遠まわしの表現を使いながら丁寧に自分の意見を話すのが韓国とは違う部分で面白かったです。短い期間でしたが大変いい経験ができました。

2011年
7~8月
実施の研修

受入研修 経営管理

マレーシア人事経理初任研修

実施期間 2011.6.20(月)~7.8(金)
研修参加者 マレーシアの行政官(初級管理職)20名
委託元機関 独立行政法人 国際協力機構 (JICA) 大阪国際センター

受入研修 経営管理

日本センター案件(ベトナム)

実施期間 2011.8.1(月)~12(金)
研修参加者 ベトナム日本センタービジネスコース受講者8名
委託元機関 パナソニックエクセルインターナショナル(業務支援契約)

受入研修 経営管理

日本センター案件(ラオス)

実施期間 2011.8.29(月)~9.2(金)
研修参加者 ラオス日本センター職員4名
委託元機関 パナソニックエクセルインターナショナル(業務支援契約)

PREX NOW 第206号
2011年7・8月発行



編集・発行: 公益財団法人 太平洋人材交流センター 専務理事 藤田賢次
〒552-0021 大阪市港区築港2丁目8-24 pia NPO 502号 TEL 06-4395-2650 FAX 06-4395-2640
ホームページ: <http://www.prex-hrd.or.jp> 電子メールアドレス: prexmail@prex-hrd.or.jp